

弘前大学や青森県、弘前市主催の「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2019」が2月8日、同市のアートホテル弘前シティで開かれた。病気の予兆を見つける画期的な方法や予防法などの確立を目指し、弘前大学を拠点に行われている文部科学省の研究開発プロジェクト「弘前大学COI（センター・オブ・イノベーション）」はこのほど、産学官民挙げての実績が認められて、第1回日本オープンイノベーション大賞で内閣総理大臣賞を受賞した。「ヘルスリテラシーをいかに高めるか：教育こそすべて」をテーマに、大勢の市民や県内外の研究者ら約600人が本県の短命県脱却や健康寿命延伸の方策について考えた。

「ヘルスリテラシーをいかに高めるか：教育こそすべて」をテーマに、大勢の市民や県内外の研究者ら約600人が本県の短命県脱却や健康寿命延伸の方策について考えた。

# "寿命革命、教育にこそ"



＜くわち・みさお 1927年、中泊町（旧中里町）生まれ。弘前大学付属農場や保育所などに勤務後、75歳で笹餅屋起業。2011年に農山漁村・シニア活動表彰の農林水産大臣賞、15年に総務省・ふるさとづくり大賞受賞＞

## 「おいしい」の声は財産 特別対談

**宮田** その感動から30年、餅を作り続け、多くの地元や観光客から愛されているんですね。

**桑田** あわ餅は多く売りましたが、今度は栽培中のアワが鳥に食べられるようになったため笹餅へと切り替えました。私の地域ではどの家庭でも、おばあちゃんたちはみな笹餅を作っていました。餅の色が茶色になるので、笹の葉のような緑色のまま出さないか教えていただきました。いま笹餅が愛されているのは、指導いただいた方々や、おいしいと買っていた方々のおかげ。みなさんに育てられ、「おいしい食べている」の言葉を財産にして、またまた頑張らなければと思っています。

**宮田** ミサオおばあちゃん、美しさと聡明さ、幸せそうに見える理由が分かっていただけたのでは。朝早く起き、深夜まで働けるくらい健康であること。笹餅を通して社会を幸せにしていることが、ミサオおばあちゃんのエネルギーなんですね。

**笹餅作り名人 桑田 ミサオさん** (92歳・五所川原)

**宮田** 日系BP社医療局アドバイザー（宮田総研代表取締役）とておいしい笹餅ですね。早朝から夜遅くまで一人で作りするのは大変なこと。笹餅作りのコツは何かありますか。

**桑田** 92歳でも笹餅を作るのは多くの方の指導のおかげです。身内でやってくれる人がいればいいのですが、家族は「ばあちゃんだからこそできる」と言います。昔からの作り方でやりたい方がいれば、一緒にやってみようという夢もあります。60歳で保育所の用務員を退職した際、農協女性部から赤飯などを作って、農家の足しになるよう協力してほしいと頼まれました。入る以上は一生懸命やらなければ、最初は母も作ったあわ餅を販売しました。慰問先の高齢者施設で「これだけ喜んでもらえるものをもちました」と、あわ餅120個を出しました。すると、おばあちゃんたちが涙を流して喜んでくれました。昔、よく作ったことを思い出したのでしょう。



**健康教養高め QOL向上 基調講演**

弘前大学COI拠点長・研究統括  
弘前大学大学院医学研究科特任教授  
**中路 重之氏**

日本オープンイノベーション大賞の最高賞は県全体で取り組みその中心の一つとして弘前大COIの活動が高く評価された。私たちの最終目標は短命県返上。本県の平均寿命は男女とも全国最下位だが改善傾向にある。5年後、10

年後は返上できるはずだ。COIは産学官民が足並みをそろえている。39市町村が健康宣言、150の小中学校で健康授業が行われ、県の健康経営認定事業所に約160社・団体が認定されるなど大きなねりが生み出された。そのプラットフォームの岩健康推進プロジェクトに注目。約1000人対象のビッグデータはゲノムから社会環境まで2千3百項目を調べ、幅広い分野から多くの研究者や企業が集まり、病気になるやすい予兆やAI（人工知能）を使ったデータ解析が進む。健診と結果判定、啓発を即行つ「啓発型健診を充実させ、QOL（生活の質）を高めたい。しかし、健康教養なくして情報を活用することはできない。県医師会の健やか力推進センターで育成している健康リーダーが力を発揮し、市民一人一人が健康リテラシーを高めることが大事になる。

### 特別講演



**減塩が健康の近道**

料理研究家 **浜内千波氏** 生活習慣病を予防し、健康的な生活を送るには、減塩を心がけることが大事だ。糖分や脂分の多い料理には意外と塩分が隠れている。

**「衣」導く健康と美**

アズキ代表取締役社長・社長執行役員 工藤洋志氏

1947年の設立以来、パンテイスティックやソックス、インナーウェアの開発・製造・販売を手掛ける。全ての女性の美と快適に貢献したいと、時代に先駆けた商品開発を進め、ストックインゲの国内シェアは約30%のり

**食の新価値創造へ**

ハウス食品グループ本社経営役員・研究開発本部副部長（ハウスウェルネスフーズ常務取締役） **山本佳弘氏**

「食を通して人とつながり、笑顔あふむ暮らしを共に創る」をコンセプトに、ドパーナをめざします。「食をクループ理念に掲げ、「食で健康」を軸に三つの責任（お客さま、社員



**食の新価値創造へ**

**パネルディスカッション**

「産学官民」一体感醸成を

掛けるには、食生活改善推進員といった住民組織の力が不可欠であると強調した。総合的研究から社会運動にまで発展させることができたCOIについて、COI研究推進機構長でマルマンコンピュータサービス常務取締役の工藤洋志氏は、個人の現状を変えたいという意思が重要であるとした。COI拠点長でもある弘前大大学院医学研究科特任教授の中路重之氏は「短命県返上を目指すには、産学官民が一緒になって初めて前進できるということを証明したい」と意気込んだ。最後に、宮田氏は「今まさに弘前が動き始めた。COIを続けていくには皆さんの応援が必要」と締めくくった。

減塩が健康の近道

健康的な生活を送るには、減塩を心がけることが大事だ。糖分や脂分の多い料理には意外と塩分が隠れている。

ロソンのや前大、具食生活改善推進員連絡協議会と協力し、塩分控えめのおにぎりと、けの汁を開発、販売している。

「衣」導く健康と美

アズキ代表取締役社長・社長執行役員 工藤洋志氏

1947年の設立以来、パンテイスティックやソックス、インナーウェアの開発・製造・販売を手掛ける。全ての女性の美と快適に貢献したいと、時代に先駆けた商品開発を進め、ストックインゲの国内シェアは約30%のり

食の新価値創造へ

ハウス食品グループ本社経営役員・研究開発本部副部長（ハウスウェルネスフーズ常務取締役） **山本佳弘氏**

「食を通して人とつながり、笑顔あふむ暮らしを共に創る」をコンセプトに、ドパーナをめざします。「食をクループ理念に掲げ、「食で健康」を軸に三つの責任（お客さま、社員

食の新価値創造へ

ハウス食品グループ本社経営役員・研究開発本部副部長（ハウスウェルネスフーズ常務取締役） **山本佳弘氏**

「食を通して人とつながり、笑顔あふむ暮らしを共に創る」をコンセプトに、ドパーナをめざします。「食をクループ理念に掲げ、「食で健康」を軸に三つの責任（お客さま、社員

パネルディスカッション

「産学官民」一体感醸成を

掛けるには、食生活改善推進員といった住民組織の力が不可欠であると強調した。総合的研究から社会運動にまで発展させることができたCOIについて、COI研究推進機構長でマルマンコンピュータサービス常務取締役の工藤洋志氏は、個人の現状を変えたいという意思が重要であるとした。COI拠点長でもある弘前大大学院医学研究科特任教授の中路重之氏は「短命県返上を目指すには、産学官民が一緒になって初めて前進できるということを証明したい」と意気込んだ。最後に、宮田氏は「今まさに弘前が動き始めた。COIを続けていくには皆さんの応援が必要」と締めくくった。

### ビッグデータ解析チーム最前線

#### AIで早期発症を予測

特別企画「ビッグデータ解析チーム最前線」では、岩木健康増進プロジェクトの2千項目超におよぶ健康ビッグデータ解析について、弘前大COIの参画大学から最新の研究内容が発表された。

京都大大学院医学研究科特任助教・内野詠一郎氏＝写真上＝は、AIによってビッグデータからさまざまな疾患（高血圧症や糖尿病などの）早期発症を予測し、予防につなげるためのモデル構築について説明した。

東京大医科学研究所ヘルスイノベーションセンター教授・井元清哉氏＝写真下＝は、その人の健康状態に大きな影

響を与えるといわれる腸内細菌叢（そう）に着目。ビッグデータを使い、腸内細菌遺伝子を解析する取り組みを紹介した。

認知症対策のため、認知機能についてビッグデータを解析する**東京大大学院医学系研究科特任准教授・平川晃弘氏＝写真上＝**は、農家のライフスタイルが睡眠障害のリスクを低くし、認知機能の維持に導くという可能性を指摘した。

**データ連携最前線**

**各地の健診データ紹介**

「データ連携最前線」では、COI参画大学の担当者である**京都府の京丹後市立弥栄病院院長で京都府立医科大臨床教授・小田洋平氏＝写真右、和歌山県立医科大医学部公衆衛**

生物学教室教授・竹下達也氏＝写真左、**沖縄県の名桜大学大学院看護学研究科教授・砂川昌範氏＝写真下＝**の3氏が登壇。京丹後市、かつらぎ町など

**社会実装リレー**

**19企業・団体 開発続々**

「社会実装リレー」では、花王をはじめライオン、ロソンのCOI参画

19企業・団体が、ビッグデータを活用したヘルスケアにつながる商品・サービス開発の取り組みについて発表した。

このうち花王は、特定の腸内細菌の減少が内臓脂肪の増加につながることや、皮脂に存在するRNAの解析から血中ホルモン量を推定できるとした。ライオンは、啓発型健診をSMT（唾液検査システム）を用いて行ったところ、歯磨き行動が改善したことを報告した。

カゴメは、不足しがちな野菜の摂取を増やすために、摂取量を測る仕組みを導入し、有効な啓発方法を検討。青森県生活協同組合連合会は、健康づくりをサポートできるスタッフ育成に努め、県民の生活習慣改善のための体験の場づくりを広げたいと意欲を示した。今年1月、弘前大に共同研究講座を開講した明治安田生命保険と広島大発ベンチャーのミルテルは未病科学研究について解説した。

企画・制作 **東奥日報社広告局**